



YES 通信

〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2024年10月号

これから19周年に向けて頑張ります

今月の29日をもって開校19年になります。来月からはいよいよ20周年目に入ります。よくぞこれまで頑張ってきたなあと自分を褒めたいです。それ以上に今迄頑張ってくれたスタッフや先生達に感謝したいと思います。

19年も経つと前原駅前の環境も大きく変わりました。開業時も塾はいろいろあったのですが、みだいに多くはありませんでした。今では、前原駅前は凄く激戦地のようで、来客の先生方や教材会社の方はみなさん口を揃えて「塾が多いですね」と仰います。

しかし、数多くある塾も実際にはどんどん入れ替わっていて、開業当初からある大手の塾は、今年全教研さんが教室を閉められたので、英進館さんだけになってしまいました。それだけ厳しい環境の中で生き残ってこれたのは、本当に関わるみなさんのおかげとしか言いようがありません。

今年、開業当初に入塾いただいた生徒の5番目の弟が卒業を迎えました。その兄弟は5人もうちの塾に通ってくれました。最後のお子様は一番上のお兄さんが塾に通っていた時にはまだ生まれもしていなかったのです。これだけ長期に渡ってご支援いただいたことは素晴らしい思い出になりました。

先月は塾生でうちの塾の講師も務めてくれた卒業

生の結婚式に参加させていただきました。長く塾を続けていると本当に嬉しい事があるものです。

開業した当初は、塾で勉強を教えることはもちろんですが、それ以上に目標を持つことの大切さを伝えていきたいと考えていました。とちらかというところ後者の気持ちが強すぎたようで、求められていないものを一生懸命プレゼンするような塾であったように感じていました。今振り返ってみると恥ずかしいほど空回りしていたような塾でした。そのような時期に支えていただいた保護者様やスタッフには本当にありがたいとしか言いようがありません。当時の先生達が、今では高校の先生や小学校の先生になって今でも情報交換できているは私の財産でもありません。それからは、勉強の苦手な生徒の成績を上げることにスタッフと懸命に取り組んできました。

開業から10年後に転機が訪れます。それがそろばんとの出会いでした。幼少期の関りに興味を持ち始めたのです。それからは速聴読やEQジム（パズル）を導入して根本的な学力向上を目指す塾になりました。今日に至っております。

この間、糸島の知名度もどんと上がって、糸島の人口も増えてきました。最近ではこのような取り組みが、移住者の皆さんを中心に支持を得て今日に至っております。当初から抱いていた目標を持つこ



この大切さを伝えるという夢も、入試改革で推薦入試が広がっていかると、こちらが無理に目標を持つことの大切さを勧めなくても、子供達が自ら目標を考えないといけない環境になり、追い風が吹いてきているような状況になっています。

おかげさまでこの数年は、広告をしなくても皆様の御紹介で、受験生は毎年満員状態を継続しております。来月からは20周年目に入りますが、皆様のご期待に、今まで以上に応えられるような塾を目指して頑張りたいと思います。

最後になりますが、開校時の写真を見ていたら改めて19年の歳月を感じてしまいました。当時は私の髪の毛も家内の髪も今とは全く違いますね。

やる気相談室

面接

学校の学びも変わってきている

先日、今年はじめての

面接対策講座を実施しま

した。昨年は、糸島高校

が特色化選抜と推薦で、

定員360名中の280

名を合格させるというこ

とになったために面接を

受ける生徒が増大しまし

た。なので、今年は早目

に対策をしています。

今回は、12名の生徒が受講してくれた

のですが、開始前に準備をしている段階

で、「グループワークですか?」と聞いて

くる生徒がいて、「そつだよ」と答える

と「やった〜」という答えが戻ってきまし

た。最近では、学校でもワークショップ形式

の授業が多いみたいですね。

講座を始めると最初から案外慣れた様子

で楽しそうに受けている生徒が印象的でした。

100年ほど前からコミュニケーションカ

の向上につながるようなグループワークを

取り入れた講座を試してきましたので

が、大人数でやると好き嫌いがはっきりし

て、どうしても苦手な生徒が気になるので

ですが、そのような生徒が少なくなってきた

いるように感じました。

受験改革が進んでいく中で学校の授業で

もグループワークが増えてきているよう

で、以前のように人前で話しをするのが苦

手な生徒が減ってきているようです。昨年

も面接対策は多くの生徒が積極的に取り組

んでくれました。

面接練習をすることのメリットは、自己

理解が深まり、自分の長所や短所が明確に

なり、自分の強みを生かした目標設定が出

来るようになること、また面接練習を通し

てコミュニケーションスキルの向上につな

がるのが挙げられます。知識の充実以上

に大切な人間的な成長が見込めるのです。

今までの受験システムでは、知識の習得

に偏っていましたが、早い時期に面接対策

する機会を得ることで、コミュニケーション

ンスキルの向上や自己成長が期待できるよ

うになったことは、とても意義のあること

だと感じています。

学校教育も個性を重視するような教育

や、参加型の教育が増えてきたことで、今

までの日本人が苦手だった自己主張や個性

を生かした生き方が出来るような人材が生

まれてくることを期待しています。

面接練習で生徒は私まで元気が出るよう

な、夢や目標を語ってくれます。目標や夢

にはそれ自体に大きなエネルギーがあると

思っています。受験まで生徒達と一緒に頑

張っていききたいです。



書籍紹介 我々は売りたい チームK 著

ワクチンを日本一販売している会社の現役社員が、ワクチン接種に関して注意喚起を呼びかけた本です。この本の前書きにはとても明るくて元気だった同僚の社員が、コロナワクチンを接種して3日後に亡くなったと書いてありました。その社員の名前の頭文字からチームKという名前が付けられたそうです。

私もコロナワクチンの危険性に関して度々発信してきたものの2人の子供達もワクチンを接種していますし、ほとんどのうちの塾の先生もワクチン接種をしています。これだけ国を挙げて、そしてメディアも一斉にワクチンの良いところだけを取り上げて報道していると、私も無力感を感じざるを得ませんでした。しかし、最近ではワクチン接種を見合わせる人も増えてきていて、徐々に浸透してきているのではないのでしょうか?この本は、9月の18日にネットで注文していたのですが、品切れで今月の5日に届きました。このような本が売れていることはとても喜ばしい事です。国の公開データのおかしさを、「もしこのようなデータを製薬会社が使ったら販売停止になる」との表現もありました。今回のワクチン接種は、普通なら10年以上かかるような治験がコロナのどさくさに紛れて、極めて短時間で承認されたことも含めて、不可解なことだらけだったのです。一人でも多くの人に読んで欲しい本です。

私たちが 売りたい はない!

“危ないワクチン”
販売を命じられた製薬会社
現役社員の働哭

チームK著

日本人は実験動物!?
安全を示す十分な証拠を
なぜ接種開始する?

これまでは安全だった
インフルエンザワクチンも、
今後は危険に!?
あなたと大切な人を守るために、
どうしても読まねばならないこと。

世界初の
レプリコン
ワクチンの
正体とは?

方丈社

ワクチンを一歩販売してきた

Meiji Seikaファルマ現役社員が全力で警鐘を鳴らす!